

地域と連携した演習の試み

—横須賀市追浜地区商店街活性化をめぐる—

関東学院大学 正会員 ○昌子住江
イング総合計画㈱ 齊藤俊幸

はじめに

大学と地域の連携、あるいは地域に開かれた大学ということが盛んに言われるようになった。特に工学部の場合は、現実「地域」が抱えるさまざまな課題を研究対象とすることも多く、現場に学び、現場に貢献することは一つの使命ということもできよう。また、教育において「現場で学ぶこと」の重要性は、改めて言うまでもないことなのだが、今日の状況はそのことをより痛感させる。

私の勤務する関東学院大学工学部土木工学科では、残念ながら入学生のほとんどが土木を第一志望としていない。最近では、何の目標も考えずに、何となく入れるところに入ったという学生が大半である。したがって、教室での授業だけではいつまでも実感が持てないし興味も湧かない、というのが実情である。多くの学生はそうした状態で就職活動に入るから、なかなか就職先が決まらないし、決まっても入ってからすぐにやめるという問題も出てくる。

こうした状況に少しでも打開策を考えようと、昨年度より3年生に演習科目を設け、「まちづくり起業入門」と銘打って学生とともに地域に出て、「現場で学び、それぞれに地域に貢献することを考える」授業をはじめたわけである。手探りではじめた演習であったが、本年度は幸い大学に隣接する横須賀市追浜地区を対象とし、関係者の協力を得て授業を進めることができた。本稿は、こうした地域と連携した演習の試みに関する報告である。次年度以降も継続を予定しているところから、ご批判やご示唆をいただきながら、今後に生かしたいと考える。

「まちづくり起業入門」の考え方

私の勤務する学科では、学生は1年生から建設系と計画・環境系に分かれる（なお、2004年度から学科の名称初め内容も大幅に変わる。これは2003年度入学生までである）。私が担当する計画・環境系の学生は約20名、学科全体の約4分の1を占める。3年次の後半におかれている演習は必修であり、計画・環境系を担当する2名の専任教員のいずれかを選択することになる（最近では、いわゆる起業に関する科目が設けられるようになって来たが、その多くは選択であるとみられる。必修科目にこれを置いている意図は、前述の通りである）。

次にこの演習を「まちづくり起業入門」とした理由である。彼等は計画・環境系の学生であり、都市計画・まちづくりにある程度認識を持っていること、まちの調査やまちづくりに関するワークショップもある程度経験している（もちろん個々にはそうでない例もある）。そこで、より深く地域と関わり、自分自身の取り組むべき課題として地域ニーズを探り、その対応策をコミュニティビジネスとして組み立てることを目標においた。私自身にも都市計画コンサルタントの経験はあるが、演習には実際に自らも起業し、また起業指導にも当たっている、イング総合計画㈱代表取締役の齊藤俊幸氏の協力を得た。このことは学生の指導のみならず、地域の企業、商店街、行政との連携に大きく影響したと見ている。

横須賀市追浜地区の概況と演習との関わり

横須賀市の追浜地区は横浜市との市境にあり、関東学院大学金沢八景キャンパスと隣接地している。

keyword:横須賀市追浜地区、商店街活性化、コミュニティビジネス、大学と地域、まちづくり演習

連絡先：関東学院大学昌子研究室 E-mail:sshoji@kanto-gakuin.ac.jp TEL&FAX 045-786-7753

京浜急行電鉄の追浜駅周辺には商店街が広がり、それより山側には住宅地、海沿いは工場地帯になっている。ここには、日産追浜工場、住友重機、岡村製鉄所など日本を代表する大企業とその系列工場の他、「しんかい 6500」「しんかい 2000」で知られる海洋科学技術センターや横須賀市のリサイクル施設「アイクル」もある。

山側の住宅地は昭和 40 年代の計画的開発地を中心に高齢化が進んでいる。工場地帯でも徐々に空洞化が進み駅前商店街も衰退の兆しが見える。日産追浜工場は存続したが、3 交代制が 2 交代制になったため夕方の時間帯に飲食店に立ち寄る客が少なくなったことも、衰退を招く一因との声もある。

地元では追浜活性化協議会を結成し、こうした状況に対処するため様々な活動を行ってきた。また隣接地にある関東学院大学との連携を望んでいた。

演習のねらいと概要

追浜地区にはこの他にも、縄文遺跡として有名な夏島貝塚、戦争遺跡としての貝山地下壕など多くの史跡もあり、いわゆる地域資源に事欠かない。我々の活動はまずこれらを知ることから追浜地区の特性を把握し、地域の再生にこうした地域資源をどう活かすかを考え、学生一人一人が自分なりの提案にまとめることとした。

そして、地域調査から提案の作成にいたるまで、地元の方々（追浜活性化協議会、追浜商盛会、横須賀市追浜行政センターなど）の御協力をいただいた。すなわち、現場に出るときはもちろん、時々教室での議論にも加わっていただいた（表 1）。

提案内容と今後の課題

追浜地区に関する一応の調査を終えた後、地元の方々と話し合いをすすめながら、学生はそれぞれ地域再生に貢献しうるテーマを選んでいった（表 2）。まず基本的なテーマとして人口の推移と予測があり、大学が近いことから、学生が短期間使用して郷里に戻る時に不要となる家電製品を、地域の人も含めてリサイクルする、また住民と学生で自転車を共用するという提案、海洋科学技術センターに因み、また三浦半島の油壺から海洋深層水を得ることができることから、これを商店街で商品開発に生かせないかという提案、産業も観光になりうるということで、魅力的なコース設定と企画による案内サービスの提案、さらには空き店舗を活用した特産品開発や地域間交流、商店街へのわがまち意識を高めるための住民施工型道路舗装の提案などがある。

これらの提案は、もちろん実現されることを目指しているのだが、限られた時間でもあり実現のためには更なる検討が必要である。更なる検討には、これまでの演習の枠内では不十分でなることは明らかである。追浜活性化協議会、商盛会等の地域団体の受け止め方、追浜行政センターをはじめとする横須賀市の支援がどのようになるのか、この段階での大学の役割はどうなるのか、それぞれに具体的な対応が必要となる。

ただ、私自身近くにいながら追浜の魅力と可能性にこれまで気付くことがなかった。こうした貴重な経験が得られたことに感謝しつつ、これらの提案が実現し追浜の活性化に役立てるよう尽力したい。

表 1 授業のスケジュール

9 月 25 日	オリエンテーション
10 月 2 日	商店街視察
9 日	貝山地下壕見学
16 日	海洋科学技術センター見学
23 日	見学のまとめと追浜の特性把握
30 日	個別テーマの検討（1）
11 月 13 日	追浜の商店街で何ができるか考える
20 日	SOHO 起業者の話を聞く
27 日	日産追浜工場見学
12 月 4 日	個別テーマの検討（2）
11 日	中間報告会
18 日	個別テーマの検討（3）
1 月 8 日	発表準備
15 日	最終発表会

表 2 学生個別テーマ一覧

- ・追浜地区の人口の推移と予測
- ・学生セコハンまつり（家電製品リサイクル）
- ・学生と住民の共用サイクル
- ・空き店舗による特産品販売と地域間交流
- ・産業観光案内サービス
- ・メタンガス利用と地域活動
- ・海洋深層水を利用する商店街の食品コミュニティ
- ・空き店舗を活用した地域住民のコミュニティ活動
- ・海洋深層水サービスステーションの提案
- ・住民参加型道路舗装